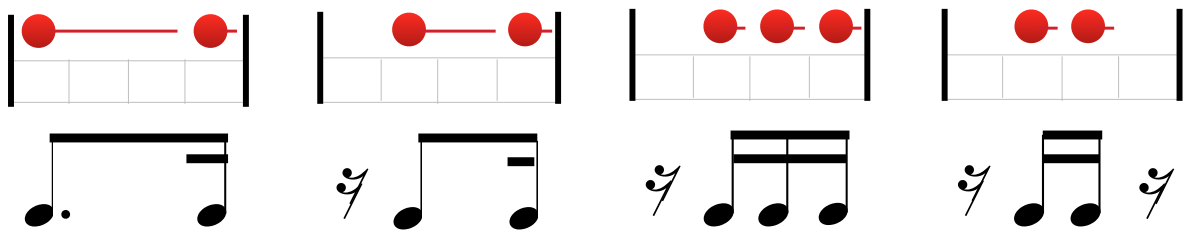
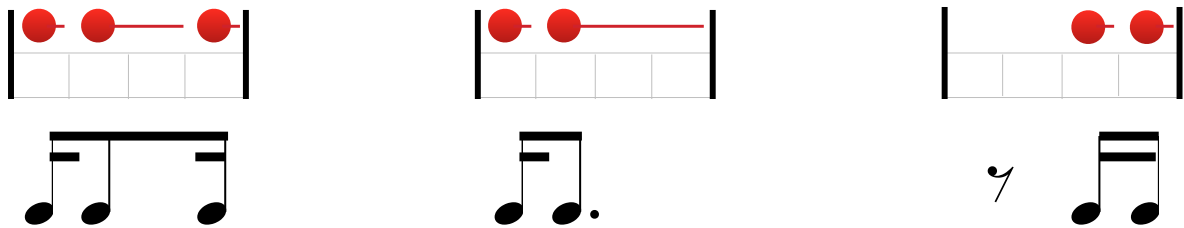
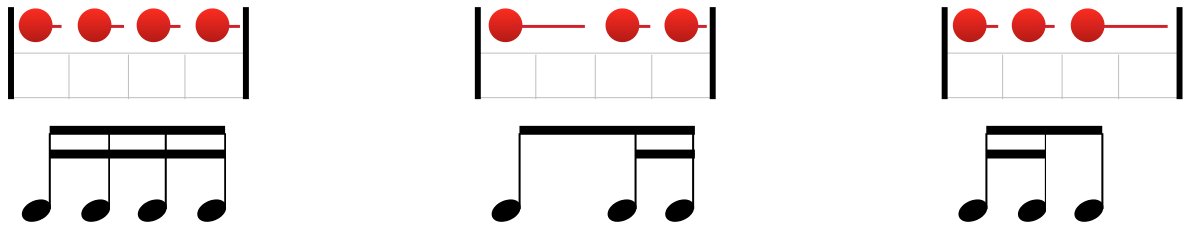


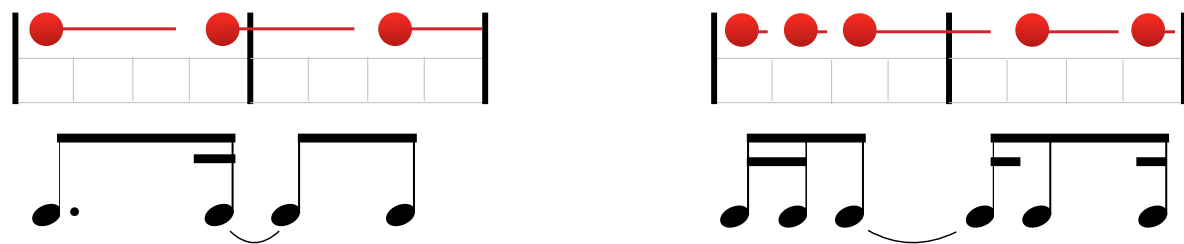
# 第4回 メロディ構築の準備③

## 五線譜の基礎3 16beatの符割

16beatでよく使われるリズムフレーズを楽譜との対比で記します。16beatメロディの構築は難易度が非常に高く、これらリズムフレーズの習得が必須となります。メロディだけでなくアレンジ上でも非常に有効なスキルとなるので是非習得してください。



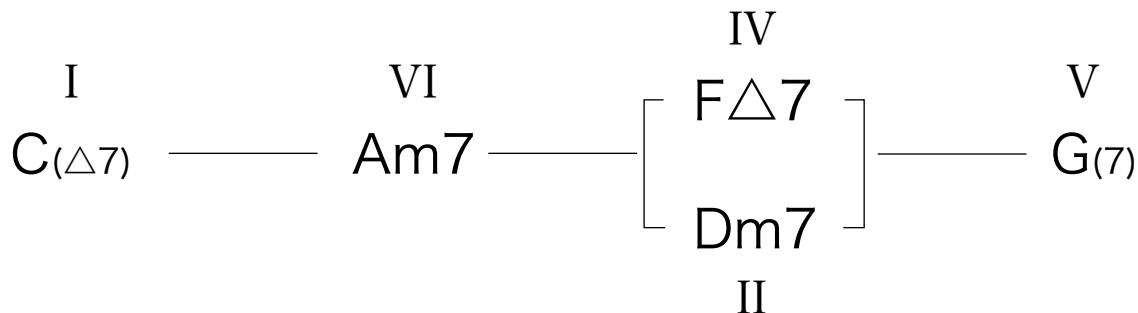
これらのモジュールを使ったシンコペーションリズム例です。16beatフレーズはシンコペーションを多用することで大きな躍動感が出ます。



# 循環コードの応用

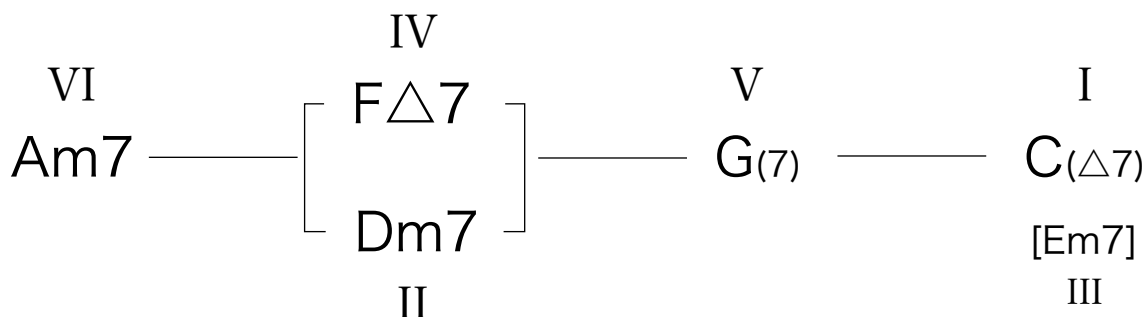
循環コード(I - VI - IV[II] - V)は、その基本形から変化させて様々なパターンのコード進行を作り出すことができます。これらのパターンを組み合わせることで1コーラスのストーリーを合理的に構築。

## 循環コード基本形



IVとIIはほぼ等価値。メロとの関係やサウンドの流れで決めて良い。

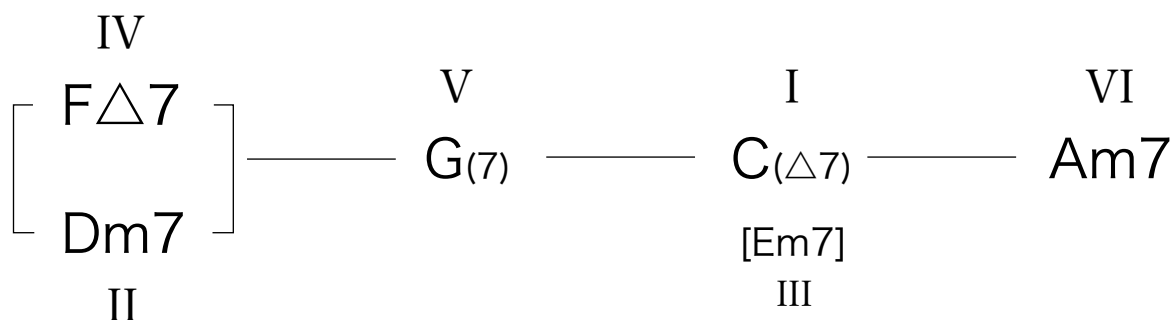
## 循環コード変化形1……VIからスタートできる



IのところIIIを用いても良い。ただし、これはIとIIIが等価という意味ではない。次に続くコードとの関係性において変換可能という意味である。

## 循環コード変化形2……IV(II)からスタートできる

(重要)サビによく用いられる「サブドミナントスタート」



# ペントトニックスケールとDiatonic 7th chordの関係

メロディになるべくペントトニックスケールを用いるメリットは心に残りやすいという理由の他に、Diatonic 7th chordにてアボイド音となる確率が低いことがあげられます。さらに印象的な「テンション音」を豊富に含められることも大きいです。

C Dm7 Em7

R 9 13 (6) 9 11 11

サブドミナントのR音はカッコ悪い

アボイド

F $\Delta$ 7 R音が無くさらにアボイドも無い G7 Am7

13 9 13 R 9 11

アボイド

## メロディ構築実践2

etude-2 8小節パターン

メロディ使用音符 メジャーペントトニックスケール(C D E G A)

コード進行 循環コード変化形(サブドミナントスタート)

etude-2 8bar

F $\Delta$ 7 G Em7 Am7

Dm7 G7 C Am7